

上越教育大学附属図書館
月曜〇〇講座 2016/6/13

レポートの書き方(入門編)

城間 祥子

(グローバル・ICT・学習研究コース)

目次

1. レポートの読み手を意識する
2. レポートの種類
3. 結局レポートって何？
4. 事実と意見を区別する
5. 引用のお作法
6. レポートを提出する前に
7. 振り返りのためのレポートを書く

1.レポートの読み手を意識する

- レポートの主要な読者は、課題を出した教員
- 教員に伝わる文章を書こう！（わかってくれるだろうという甘えは禁物）
- 課題の条件を満たしていないレポートは論外
 - 課題内容（テーマ）
 - 文字数、ページ数、用紙、書式、表紙の有無
 - 提出期限（体調不良、データ消失、プリンタ不調どんな理由でも遅れは遅れ）
 - 提出方法（紙で？、メールで？、Google Classroomから？）
- レポートの出題意図をくみ取ろう

2.レポートの種類(例)

- 研究レポート (〇〇について論じなさい)
→問いの設定、資料収集、論証
- 書評レポート (課題文献を読み批評する)
- 実験レポート (実験の目的、方法、結果、考察)
- 学習レポート (〇〇について調べてまとめなさい)
- 振り返りレポート (授業で何を学んだのか)
- そのほか、個別的な課題のレポート

3.結局レポートって何？

- 「レポートとは、調査や研究の結果わかった**事実**と、それに基づく**自分の意見**をまとめた報告書」(学習技術研究会、2006)
- 「大学で求められているレポートとは、**事実や資料**をもとにして、**自分の考え**を報告(report)するもの」(藤田、2006)
- 「レポートとは、『**問い**＋**答え**＋**答えを導く議論**(理由＋**客観的根拠**)』から成り立っている」(慶應義塾大学教養教育研究センター、2014)

4.事実と意見を区別する

事実(客観的根拠)

- 「～である」「～は～と言っている」など断定的な書き方
- 出所を示すことで、他の人が真偽を確かめられる

意見(自分の考え)

- 「～と考えられる」「～と言える」など判断が入っていることを示す書き方

練習問題 次の文は「事実」か「意見」か

- ① 東京が、日本の首都である。
- ② 大阪は、食文化の中心である。
- ③ 京都こそ、食文化の中心だと思う。
- ④ 「名古屋が食文化の中心である」と〇×□ガイドブックに書かれていた。

(藤田、2006)

5.引用のお作法

- 「レポートの中で他人の文章を紹介することを『引用』といいます。引用する場合に注意しなければならないことは、どこからどこまでが自分の意見なのかがはっきりわかるように書くことです。他人の意見をきちんと区別せずに自分の意見のように使うと『盗作』になり、レポートが評価されなくなってしまいます」（学習技術研究会、2006、P.115）
- 「他人の書いた文献（論文・レポート・著書）の内容を、まるで自分が独自に考えたものであるかのように扱うことは、『盗用・盗作』あるいは『剽窃』として、もっとも許されないことになっています」（藤田、2006、P.138）
- 引用のしかたは、研究分野により異なるので、その分野の論文誌や専門書の書き方を参考にしましょう。

(例) APAスタイルでの引用

- 他人の文章をそのまま使う場合
 - 藤田(2006)は「正しく引用すれば、それも『事実』の記述のうちになります(P.139)」と述べている。
- 文章をそのまま使う場合は、抜き書きした部分を「 」でくるなどして、地の文と区別する。その際、文章を勝手に変えてはいけない。
- 他人の文章を要約して使う場合
 - 藤田(2006)は、本文中の引用の仕方は大きく2通りあり、要点をまとめて引用する場合と、原典から直接抜き書きする場合があると述べている。

(例) 引用文献リストの書き方

- 本文中で引用した文献は、本文の最後に書誌情報を表記する。
- 著書の場合
 - 著者名、出版年、本の題名、出版社名
- 論文が学術雑誌に掲載されている場合
 - 著者名、出版年、論文題名、論文が掲載されている雑誌名、雑誌の巻数・号数、掲載ページ
- 論文が論文集に掲載されている場合
 - 著者名、出版年、論文題名、論文集の編著者名、論文が掲載されている論文集名、出版社名、掲載ページ
- インターネットの場合
 - 資料名、サイトの管理団体・組織名、サイトアドレス、検索日

6.レポートを提出する前に

- 必ず「推敲」しよう
 - 指定された条件を守っているか
 - 問いに対して答えているか
 - 根拠に基づいて意見が述べられているか
 - 事実と意見を区別して書いているか
 - 引用の仕方は正しいか
 - 参考文献、引用文献が記載されているか
 - 誤字脱字はないか
 - 話し言葉を使っていないか
 - 「だ・である体」と「です・ます体」が混在していないか
 - 学籍番号、氏名が書かれているか

7.振り返りのためのレポートを書く

1. 今日の授業で学んだことを要約する
 - ○○について、どのようなことを学んだのか。
 - これまでの学習と関連付けたり、自身の経験から具体例をあげるとなおい。
2. 授業の中で考えたこと、疑問に思ったことを述べる
 - この部分は自分の意見となる
 - なぜそのように考えたのか、理由も述べる
3. 学んだ内容を今後の学習や生活と結びつける
 - 次はこのような内容を学んでみたい
 - このような場面で活用したい

引用文献

- 藤田哲也編著(2006)『大学基礎講座改訂版—充実した大学生活を送るために』北大路書房
- 学習技術研究会編著(2006)『知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ(改訂版)』くろしお出版
- 慶應義塾大学教養教育研究センター監修、慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員著(2014)『アカデミックスキルズ 学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会